

千曲川河川事務所へ要望を行いました。

令和3年3月4日



協会・連合会による、国土交通省北陸地方整備局 千曲川河川事務所の齋藤所長へ、松田文治会長から要望書を提出しました。

令和元年 10 月に東北信地域を襲った東日本台風では千曲川の氾濫で未曾有の大災害が発生しました。砂利採取事業者として河川流域で永く事業を営んできた経験上、定期的実施する河川砂利採取は河川断面を十分に確保することとなり、治水上有益であることや、公共事業に用いる骨材資源の枯渇化傾向の県内の現状では、資源確保の観点からも有効な対策であること等を訴え、令和 3 年度からの次期砂利採取規制計画で採取可能量の増加をお願いしました。

齋藤所長からは、「現在策定中の次期砂利採取規制計画では、従来より大幅な増加となるよう検討中である。千曲川流域治水対策で行う河道掘削では、砂利採取の協力を得たい」等、丁寧なご対応をいただきました。

要望書提出に先立ち、千曲川及び犀川流域の関係組合から各地域毎固有の実情等を取りまとめ、当日は片井周一副会長（東信砂利協同組合理事長）、藤澤幸治副会長（松本平砂利事業協同組合理事長）、丸山功一副会長（飯山砂利採取販売協同組合理事長）、丸山照二理事（中信松本平コツザイ協同組合理事長）、田中秀幸理事（千曲筋砂利採取販売事業協同組合理事長）、小橋浩樹理事（中高砂利採取販売協同組合理事長）、長竹恭幸理事（長水砂利採取販売事業協同組合理事長）、月山成友上高井砂利採取販売事業協同組合等、関係する組合から出席いただきました。